

意見交換会

平成26年度 国土交通省との意見交換会

(一社)全国土木施工管理技士会連合会(以下「連合会」という。)は、平成26年11月27日(金)東京都内において、国土交通省との意見交換会を開催した。当日は、徳山技監他、多数の省幹部が出席された。

冒頭、連合会の谷口会長と、国土交通省から徳山技監のご挨拶があった。

谷口会長は、「担い手3法が成立し、建設ビジネスは転換期に来ている。現場での改善が重要だ。受発注者がパートナーシップ精神を発揮し、困難を解決していく必要がある。」と述べた。

徳山技監は、「国交省の公共事業関係費は、13年ぶりにプラスに転じたが、一番大事なのはこれが安定的に続くことだ。」と強調し、意見交換会を通じて現場の課題を聞かせてほしいと述べられた。



国土交通省 徳山技監

意見交換会では、連合会から討議課題として、①「技術者の技術力向上・技術者制度」と②「現場の改善」の2項目について、現状の課題と対策案を説明した。

①技術者の技術力向上・技術者制度では、“現場代理人を監理技術者と同等評価する”ことによる若手技術者の育成、また②現場の改善では、「繰越工事の適切な発注時期と繰越手続きの簡素化」や「工程表(クリティカルパス)を受発注者間で共有する体制整備を踏まえた適切な工期設定」及び「設計変更協議等における提出書類の簡素化や設計変更金額の提示」などについて討議された。

国交省側は、色々な面から幅広く検討しており、モデル工事や試行結果などを踏まえ、よりよい仕組みづくりを検討していきたいと語っていた。



連合会 谷口会長